

朝鮮産甲殻十脚類の研究

第二報 ヤドカリ類 (その三)

上 田 常 一

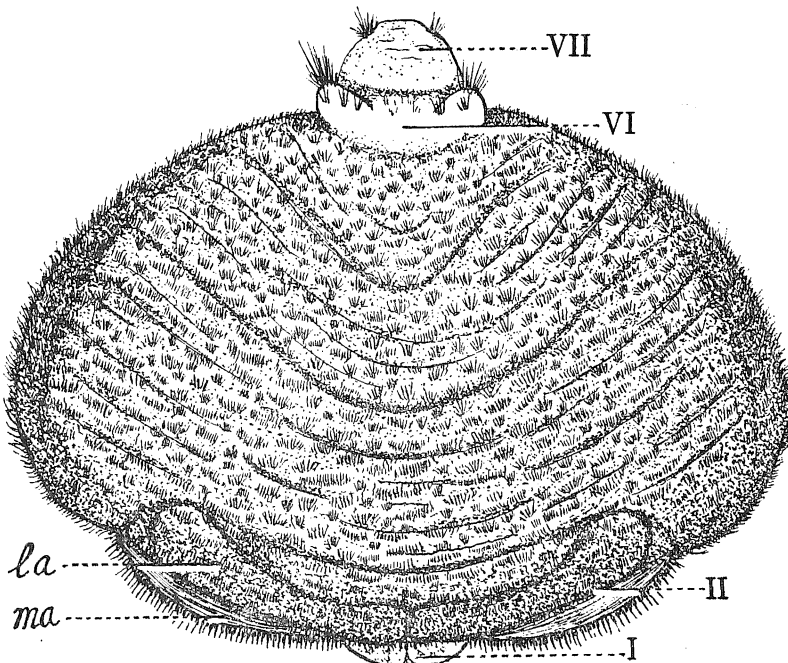
KAMITA, T. : Studies on the Decapod Crustaceans of Corea,
Part 11. Hermit-Crabs. (3)

朝鮮産タラバガニ科2亜科の検索表

- A. 形が小, 腹環節 (III~V) は環節的構造なく, その石灰化は不良。
..... Hapalogastrinae ショウジョウガニ亜科
- AA. 形がきわめて大, 腹環節 (III~V) は明瞭なる環節的構造をなし, その石灰化は著しい。
..... Lithodinae タラバガニ科

a. Subfamily HAPALOGASTRINAE ショウジョウガニ亜科

本亜科に属するものは, 腹部が軟らかく, しかも, 胸部の下面に緩く曲つて腹甲に密着することはない。これは腹部が大部分環節的構造をしていないことと, 石灰化が行われていない結果である。環節的構造のあるのは, 基部の2環節と末端の2環節だけで, これらは不完全ながら, 石灰化して薄板状を呈する。基部環節は中央板と左右の側板と縁板とから成り, 末端の2環節は中央板のみから成り, 側板や縁板はない。朝鮮には2属2種がいる。



Tet-fig. 22. *Oedignathus inermis* (STIMPSON), abdomen of ♂, ×3.5 :
I, II, VI, VII, abdominal segments : la, lateral plate, ma, marginal plate.

イボガニ♀の腹部

朝鮮産シヨウジヨウガニ亜科2属の検索表

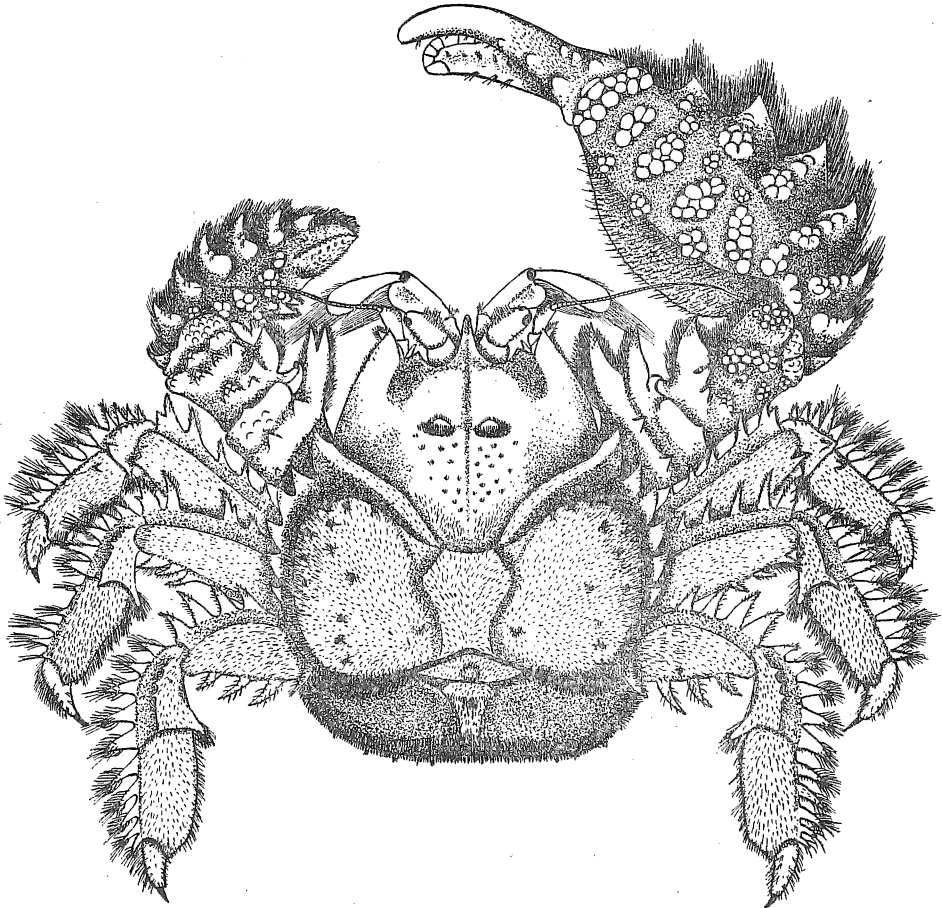
A. 甲側縁に7鋸歯を具え、第二触角（大触角）基部第二節の触角棘は扁平棘状をなして突出し、また第一節に1長棘があり、その先は触角柄第一節を超える。第三顎脚前節はひどく片方（外側方）に拡がる。…………… *Hapalogaster* シヨウジヨウガニ属*

AA. 甲側縁に鋸歯なく、触角棘は半月状をなして突出、全縁。触角基部に棘を欠ぐ。第三顎脚前節は先が両側に拡がる。…………… *Oedignathus* イボガニ属

Genus *Hapalogaster* BRANDT 1851 イボトゲガニ属15. *Hapalogaster dentatus* (DE HAAN) イボトゲガニ（疣棘；横屋猷）

Lomis dentata DE HAAN 1849, Faun. Japon., Crust., p. 219, Tab. XLVIII, fig. 2, Tab. Q.

Hapalogaster dentata, STIMPSON 1858, Proc. Acad. Nat. Sci. Philad., X, p. 245 (not read); 1907, p. 198; RATHBUN 1910, p. 162; KIKUCHI 1932, p. 9.



Text-fig. 23. *Hapalogaster dentatus* (DE HAAN), ♂ from Hôgyo-ri, Keishô-nundô, ×2.5.

イボトゲガニ

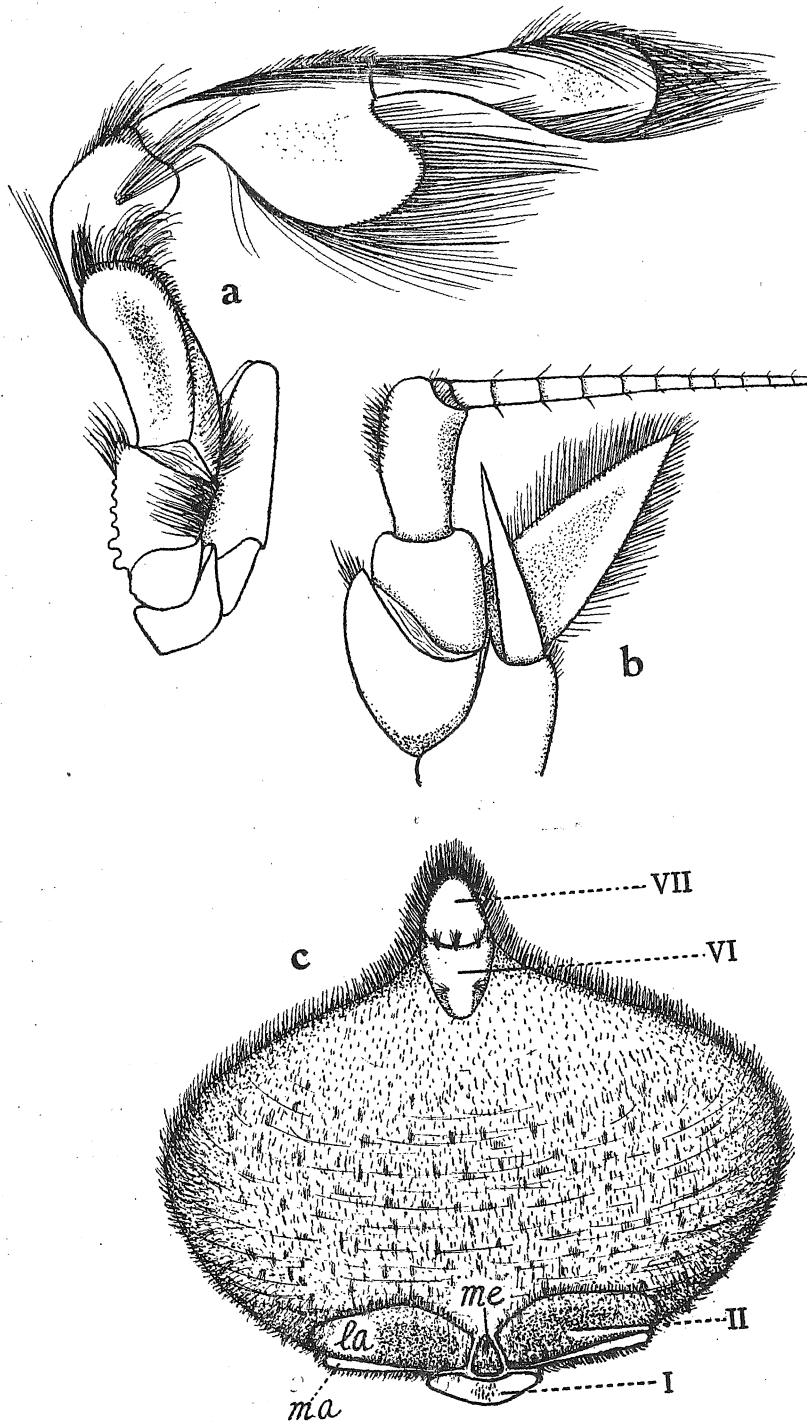
* シヨウジヨウガニ *Hapalogaster grebnitzkii* SCHALFFERW は北太平洋に分布、近くは樺太に産し、甲甲長巾ともに34mmある。

Hapalogaster dentatus, MIERS 1879, Proc. Zool. Soc. London, p. 47 ; ORTMANN 1892, p. 323 ; YOKOYA 1928, p. 758 ; 1939, p. 287.

Localities : Hôgyo-ri (near Urusan), Japan Sea coast ; 1 ♂ ; VIII/1932. Collector unknown. Hichin-tô, Korean strait ; 1 ♂ (owned by the Fish. Exp. St. Gov. Gen. of Chôsen) ; 5/VIII/1939. Reisui ; 1 ♂ (owned by the Reisui Fisheries School) ; Collector and date unknown.

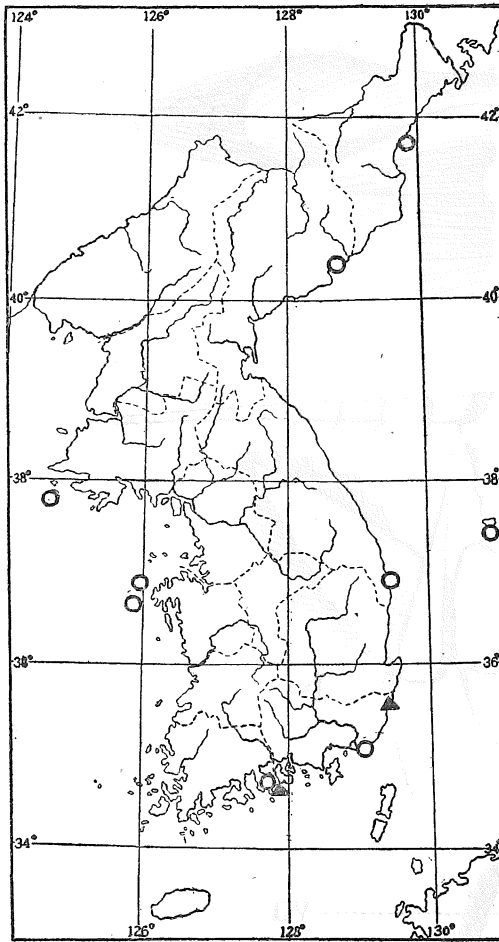
Measurements : ♂ from Reisui, length of carapace 23 mm, Width of same including lateral spines 26 mm.

本種はつとに SIEBOLD 氏の日本動物誌に記載され、次いで、STIMPSON 氏によつて函館湾及び伊豆下田から、また、MIERS 氏によつて朝鮮海峡五島から報ぜられ、日本海ではさらに、ウラジオストックの他に、横屋氏の陸奥湾、菊池氏の富山湾を加えるなど、極東アジアに広く分布する。後述イボガニと異り、甲側縁や各脚によく発達せる多くの棘を具えて *dentatus* である。甲長 23mm 甲巾 26mm に達す。頭胸甲は三角形を呈して毛を被り、顕著なる横溝によつて頭部と胸部を界され、胃域と鰓域は高まる。胃域に顕著なる 2 箇の毛叢がある。頭甲は前縁中央に 1 額角があり、眼窩の外に大小 2 棘があつて内側のものは小さい。胸甲側縁に 6 棘があり、後方のものほど小さい。これら側棘のなかには往々分叉するものがあり、第四側棘間が最大甲巾をなす。眼柄は太く額角より長い、上面は扁平内縁に毛を密生。触角は基部 2 節と内外両枝から成り、内枝は 2 節の触角柄と鞭毛から成り、外枝は触角鱗に化して巾広く棘状を呈し、基部第二節から外方へ突出して周縁に毛を列ねる。同第一節には別に 1 棘あり、長くして触角柄第一節を超え、両棘は交叉する（これは裏側から観察するがよい）。第三顎脚の前節は外方へ拡がり、指節はスプーン状をなし、共に長毛を列す。鋏脚は右が左より著しく大、掌節は三稜柱をなし、上面に小疣の集合より成る多くの複疣があり、ほぼ 6 条の畦をなして列び、外縁のものは前向する 6 棘を呈す。掌節の内面および下面に毛を装い、外縁の 6 棘から不動指の基部にかけて密毛を列す。鋏脚腕節は前縁基部に 1 棘と上面に複疣を具う。長節は短く上面に数歯あり、前縁に 3 棘を列し最内側の棘は小さい。以上 4 棘は密毛を装う。第一・二・三步脚は扁平、前縁に棘を列するが、それは長・腕・前節に各 5 棘づつあり（第三步脚長節のみは 4 棘）、毛を装う。それら指節の爪は黒い。第四步脚は退化的で著しく小、頭胸部の下にかくれて、基部のみが露出する。♂の腹部は左右相称、大きな囊状栗実型を呈し、表面に短毛密生、末節を中心とする多くの同心線溝がある。第一節は小さい 1 箇の中央板のみとなり、第二節はそれを失い側板と縁板とのみから成り、縁板は翼状をなして顕わる。第三～五節は環節的構造を欠ぎ、第六・七節は中央板のみから成る。板はすべて石灰化し他は革質。♀の腹部の構造については、標本を持合せないために記載し得ないが、次に述べるイボガニのそれに似たものと考えられる。分布は日本海の南沿岸から朝鮮海峡の沿岸に及び、個体数は少いようである。



Text-fig. 24. *Hapalogaster dentatus* : a, 3rd maxilliped ; b, 2nd antenna in ventral aspect ; c, abdomen of ♂, ×3.

イボトゲガニの第三顎脚, 触角, 腹部



Text-fig. 25. Distribution map of Hapalogastrinae found in Korea :

○ *Hapalogaster dentatus* イボトゲガニ

▲ *Oedignathus inermis* イボガニ

シヨウジヨウガニ=亜科の分布

Keishô-nandô — Fuzan ; 1 ♀ ; VIII/1933 ; Mr. K. KAMAKURA. Fuzan ; 1 ♀, 1 ♂ ; VIII/1934 ; Mr. K. KAMAKURA. Market at Fuzanchin ; 1 ♀ ; 8/IV/1935 ; Miss. K. O. O.

Zenra-nandô — Reisui ; 1 sp. ; Collector and date unknown.

Chusei-nandô — Kakureppi-tô ; 1 ♂ ; III/1933 ; Mr. S. SHIMIZU.

Keiki-dô — Mokutoku-tô ; 1 ♂ ; 26/VIII/1933 ; Mr. S. T. KAN.

Kôkai-dô — Shôsei tô ; ? 12/X/1933 ; Mr. J. HIGUCHI.

Measurements : ♂ from Fuzanchin, length of carapace 23 mm, width of same 23 mm ; length of palm of right cheliped 37 mm, width of same 20 mm ; length of movable finger

Genus *Oedignathus* BENEDICT 1894

イボガニ属

16. *Oedignathus inermis* (STIMPSON)

イボガニ (疣)

Hapalogaster inermis STIMPSON 1860, Ann. Lyc. Nat. Hist. N. Y., Vol. VII, p. 243 (not read).

Dermaturus inermis, BALSS 1913, Abh. Klass. K. B. Akad. Wiss., II, Suppl.-Bd., 9. Abh., p. 71.

Oedignathus gilli BENEDICT 1894, Proc. U. S. Nat. Mus., Vol. XVII, p. 487.

Oedignathus inermis, RATHBUN 1910, Hariman Alaska Expedition, Vol. X, Crust., p. 163 ; YOKOYA 1928, p. 759 ; 1939, p. 287 ; KIKUCHI 1932, p. 9 ; URITA 1942, p. 49.

Localities :

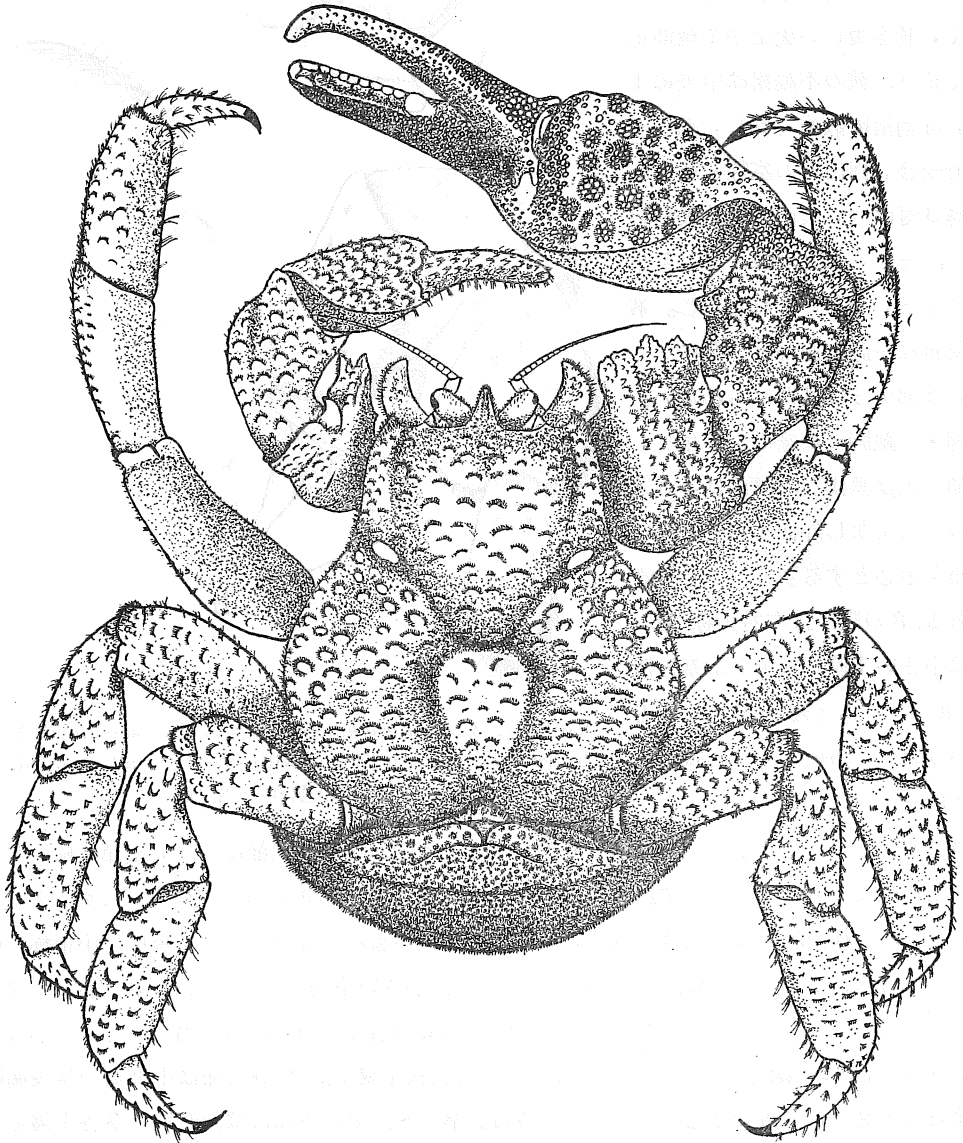
Kankyô-hokudô — Seishin ; 1 ♀ ; VI/1937 ; Mr. H. INOUE. Kigan, Tansen-gun ; 2 ♀♀, 2 ♂♂ ; 12/VIII/1933 ; Mr. M. YOSHIDA.

Kôgen-dô — Renchi-ri (near Uruchin) ; 1 ♀ ; VIII/1935 ; Mr. I. TODA.

Keishô-hokudô — Tôdon, Utsuryô-tô ; 1 ♀, 3 ♂♂ ; VIII/1937 ; Mr. K. MORIE.

of right cheliped 21 mm.

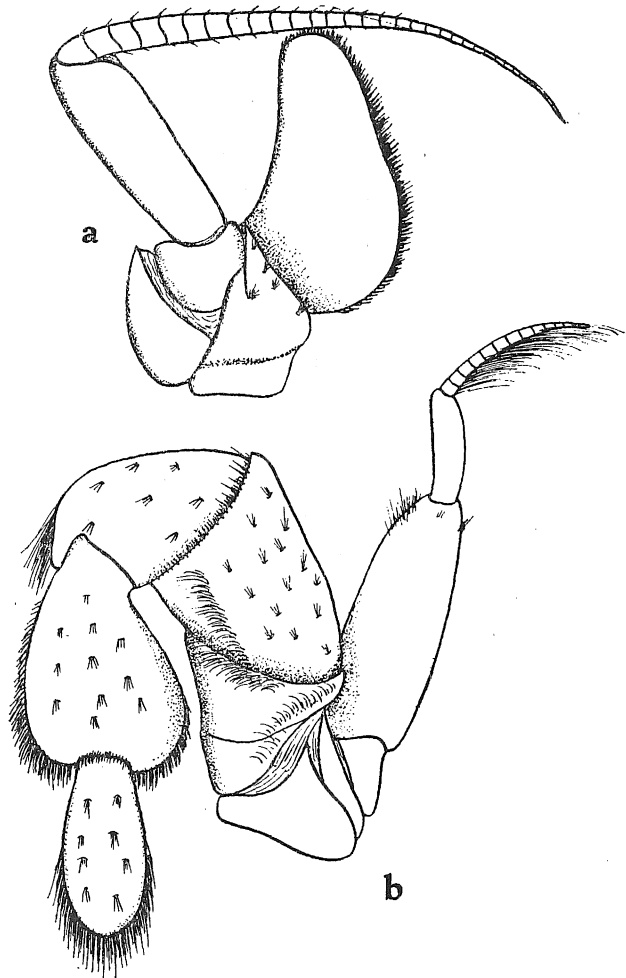
本種は北太平洋特産，寒海性，次第に南下して，朝鮮近海では，BALSS 氏によつて対馬から報ぜられている。甲長甲巾共に 23 mm 内外に達す。甲背に多くの鱗状欠刻を装い，それらの周縁には短毛を生ず。H 字状溝は顕著，肝域と前鰓域との境に光沢ある楕円形の 1 顆粒がある額角は著しく下方に湾曲，眼窩外縁に 2 齒，内方齒は著しく小さいが，外方齒は著しく大かつ鈍頭である。眼柄は太く，第二触角外枝と相同の触角鱗は大匏形（半月形）で基節に発し眼柄



Text-fig. 26. *Oedignathus inermis* (STIMPSON),
dorsal view of ♂ from Kigan, $\times 2.5$

イボガニ

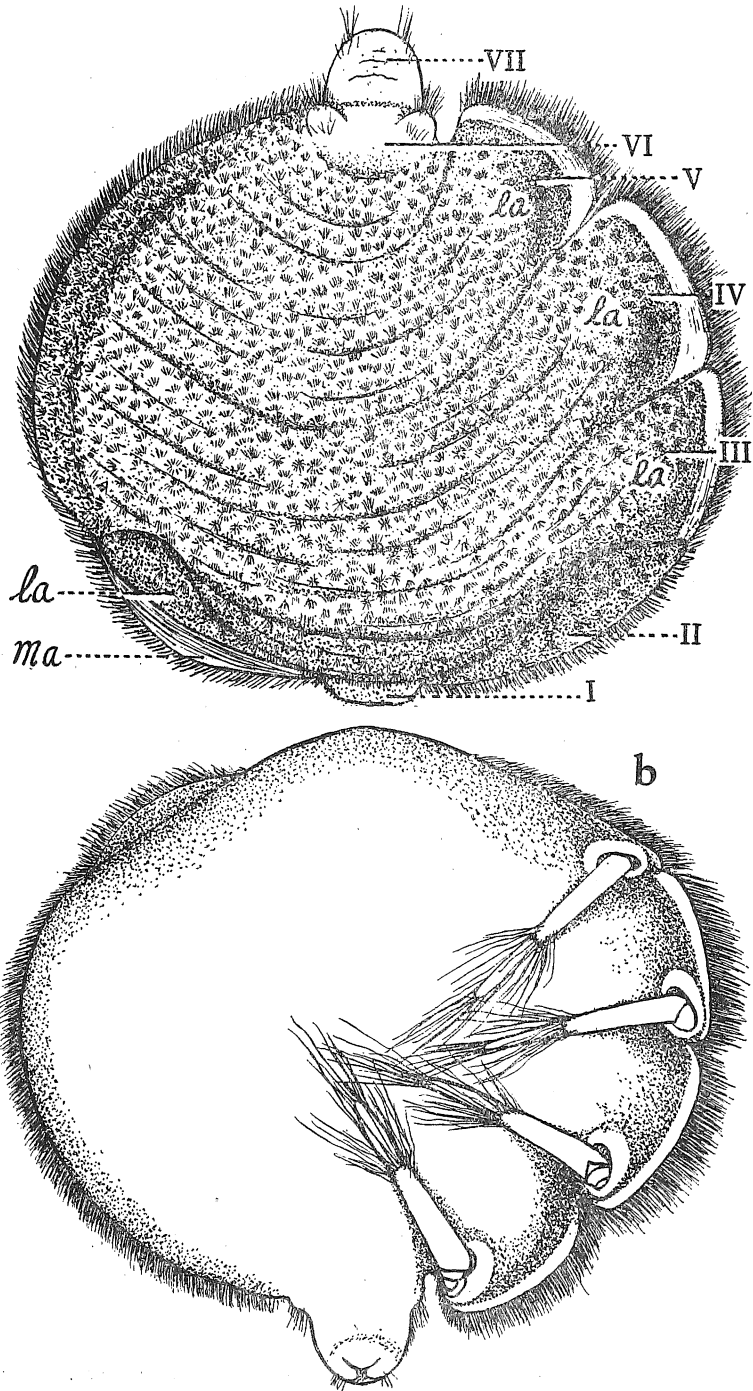
と眼窩外歯との間から外方へ突出する。第三顎脚の前節・指節は先が拡がる。鋏脚は右方が著しく大、外面には顆粒の集合から成る大小の疣を密に装い、長節は短く内縁に3棘、腕節は長く(長節の3倍)、内縁の基に1棘、掌節は著しく巾広く、最も美しい疣をやや規則正しく装う。鋏の不動指は中央に1歯、可動指に数歯を具し、両指先端で咬合、楕円形の空隙を残す。歩脚3対は大、表面に鱗状欠刻を飾り、それら欠刻周縁に短毛を生ずること、甲背のそれと同じ。第四対脚は甲殻と腹部との間にかくれ、外部からは見別けられない。歩脚・小鋏脚には剛毛を束生し、指節の爪は黒褐色。腹部は♀♂共にふくろをなし外面に短毛密生、末節を中心とする多くの同心線溝がある。♂の腹部は左右相称、第一節は小さい1箇の中央板のみとなり、第二はそれを失い、側板と縁板とから成り、縁板はよく石灰化して外縁に毛を生じ、翼状をなして



Text-fig. 27. *Oedignathus inermis* : a, 2nd antenna of ♂ in ventral aspect ; b, 3rd maxilliped of ♂. all enlarged.

イボガニの触角と顎脚

顕われるが、側板と次節との境はやや明瞭を欠ぐ。次節は第三～五節に当り、環節的構造を失い、全く革質のふくろ状を呈す。第六・七節は中央板のみとなり、かつ石灰化して明であると共に、それぞれ後端に有対毛叢を生じ、六節では疣状突起の上にある。♀の腹部は不相称左にねじれて石灰化は不完全、周縁に毛を生ず。第一節は小さい中央板のみとなり、第二節はそれを失い側板と縁板のみから成り、左の側板は大きく、縁板は右側にあるのみ。第三～五節は革質のふくろ状、左側に外縁部のみ分節して3枚の大きな側板を成す。第六・七節は中央板のみ後端に有対毛叢を生じ、六節では疣状突起の上にある。第二～五節の下面には左側にのみ各1脚を具えて抱卵に便する。朝鮮における分布は、リマン寒流の洗う東海岸から、朝鮮海峡をまわり黄海一帯に及ぶ。しかし、西及南の海岸では干満両潮線間には棲息せず、そこより沖合の水深の深い島嶼に産す。因に、日本の太平洋岸では、宮城県女川から南ではまだ採集されていない。



Text-fig. 28. *Oedignathus inermis* : a, abdomen of ♀ ; b, ventral view of same. all $\times 3.5$; I~VII, abdominal segments, la, lateral plates, ma, marginal pl.

イボガニ♀の腹部

b. Subfamily LITHODINAE タラバガニ亜科

腹部の環節的構造が明瞭で7節から成り、よく石灰化して胸部の下面に曲り、腹甲に密着する。各環節は中央板 (Median plate) 側板 (Lateral pl.) 縁板 (Marginal pl.) から成立するが、末端2節のみは中央板のみから成り、第三～五節の中央板は敷石状の多くの小片に分れる。朝鮮には本亜科のものとしては、*Paralithodes* タラバガニ属2種のみを産す。由来、本属は北緯35°以北、水温10°C以下の寒冷海底に広く分布する。

Genus *Paralithodes* BRANDT 1851 タラバガニ属

朝鮮産タラバガニ属2種の検索表

A. 額角 (触状突起) は比較的長く、基部に太い1棘と、その後に相隔たる左右2小棘を有す。第二触角の外枝は単一棘をなす。頭胸甲背面の棘相は複雑、後縁に8つの基準棘 (Normal arranged spines) を具う。側甲に棘あり。腹部第七節に1対の棘を具う。歩脚指節の内縁に棘の如きものなし。…………… *Paralithodes camtschatica* タラバガニ

AA. 額角 (触状突起) は短く、基部に左右相接近する2棘と、さらにその後に横に列ぶ3小棘を具う。第二触角外枝は、3枝の鹿角状を呈す。頭胸甲背面の棘相は比較的簡疎であるが、後縁に14の基準棘を有す。側甲に棘なし。腹部第七節に棘を欠ぐ。歩脚指節の内縁に小さい数棘を列す。…………… *Paralithodes platypus* アオタラバガニ

11. *Paralithodes camtschatica* (TILESIUS) タラバガニ (鱈場), KING-CRAB

Maja camtschatica maxima TILSIUS 1812, Mémoires l'Acad. St.-Petersb., T. V, p. 336, No. III, Tab. V, VI (not read).

Lithodes camtschatica TILSIUS, DE HAAN 1850, p. 217, Tab. XLVII.

Lithodes camtschaticus LATR., BRANDT 1851, Krebse. Middendorff's Reise Sibirien, Bd. 2, Zool., p. 18.

Paralithodes camtschatica, DOFLEIN 1900, Decapoden Krebse Arktischen Meer., Vol. 1, p. 345 (not read); URITA 1931, p. 12, Text-figs. 1~2 (in Japanese), 1942, p. 49; KIKUCHI 1932, p. 9; MARUKAWA 1936, p. 123, Pl. I, Figs. 1~2, II, Figs. 1~2, III, Figs. 1, 4~6, 11~12, 17, 20~22, IV, Figs. 1~9.

Localities :

Chanzen, Kôgen-dô; 1 ♂; III/1935; Mr. K. SATAKE.

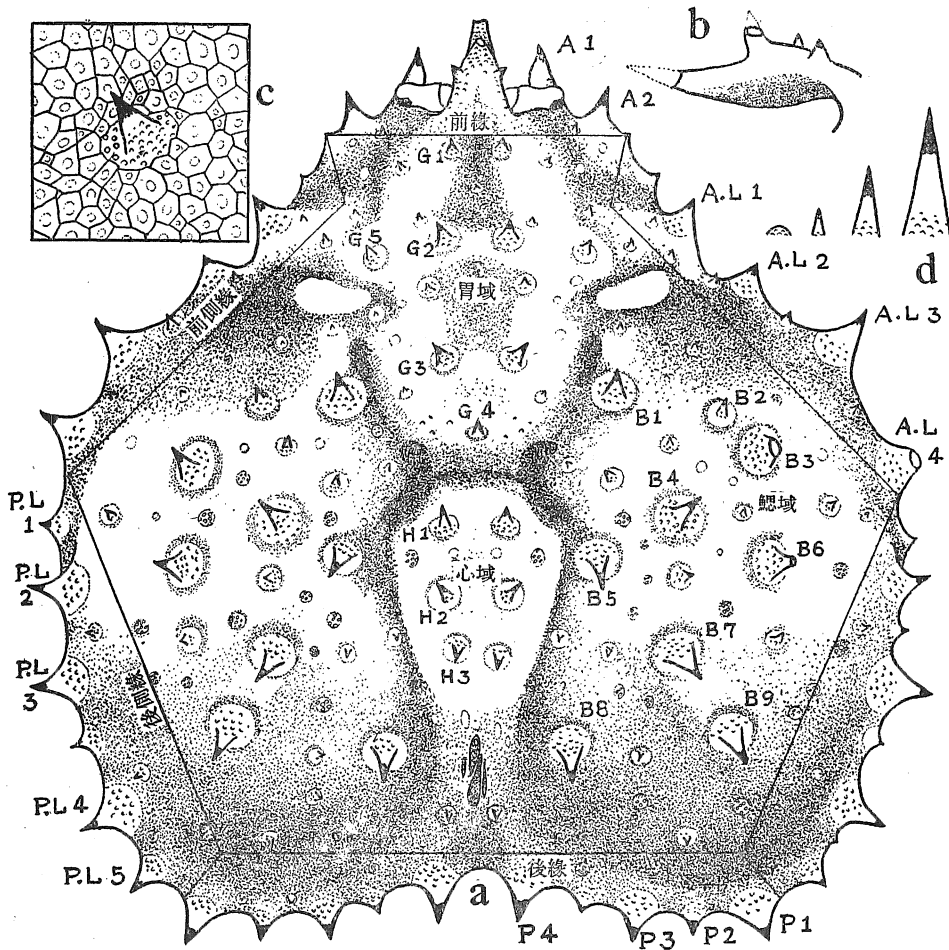
Kotei, Kôgen-dô; 1 ♂; 5/III/1934; Mr. S. NOHARA.

Sanchoku, Kôgen-dô; 1 ♂; 10/III/1935; Mr. Y. NAKAO.

Hokô, Keishô-hoku-dô; 1 ♂; III/1933; Mr. T. CHINZEI.

Measurement: ♂ from Chanzen, length of carapace (including rostrum) 200 mm, width of same (excluding lateral spines) 205 mm.

頭胸甲は甚だ大形五角形を呈し、額角は太く触状をなして突出、基部背面に3棘あり、1つは大かつ前方に位し、2つは小かつ後方に対をなす。眼窩は甚だせまく、眼板の基部を容るにす



Text-fig. 29. *Paratithodes camtschatica* (TILESIUS) :

a, carapace of ♂ from Chanzen, in dorsal aspect, × 0.6; b, rostrum in lateral aspect; c, surface of carapace, showing its figure; d, spines of carapace, developed in various size.

タラバガニの甲

ぎない。H字状溝は顕著、胃域・心域・鰓域は隆起し、*腸域およびその左右は低い。全面六角形小紋で敷きつめる。甲背面及甲周縁は大中小の多数の棘を装い、それら棘間には、棘形成にいたらざる多数の疣（顆粒）が散在するのみならず、それらの数及び大小など、巖密には左右不称であるから、棘相に多くの個体変異がある。第29図はその1例で、大形棘と中形棘とをとりあげると、

前縁 (Anterior margin)..... 4棘

額角基部の左右にあつて、両眼窩外縁とその直後に1棘づつ列ぶ。

* 南樺太産地方型——北海道北西海岸区のもの甲殻のたけ高く、樺太西及南海岸区のものこれに次ぎ、同東海岸区のもの最も低く巾広い（樺太中央試験所）。

前側縁 (Antero-lateral margin)..... 8 棘

左右の肝域から前鰓域の外縁にかけて片方に 4 棘が列ぶ。(眼窩外棘直後の 1 棘を本縁のもとすると 5 棘となる一瓜田)

後側縁 (Postero-lateral margin).....10 棘

左右の中鰓域から後鰓域の外縁にかけて、片方に 5 棘づつ列ぶ。

後縁 (Posterior margin)..... 8 棘

腹部に連結する甲尻の片方に 4 棘づつ列ぶ。

胃域 (Gastric region).....9 棘

胃域の脊に 3 対及び左右両端に 1 棘と最後方に 1 棘が列ぶ。

心域 (Hepatic region).....6 棘

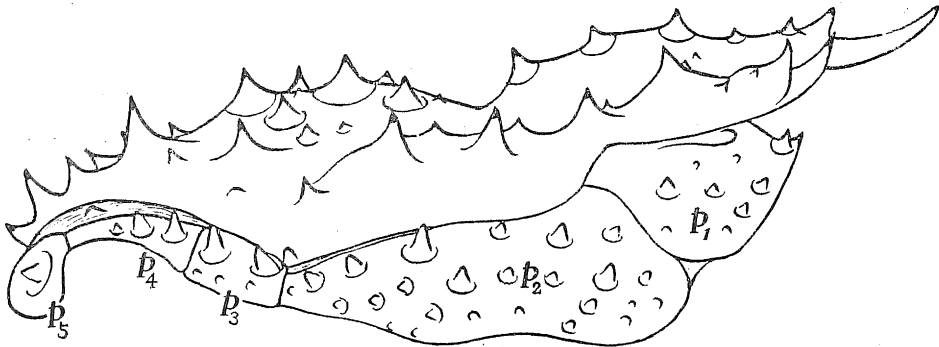
心域の脊に左右対をなして列ぶ。

鰓域 (Branchial region).....18 棘

左右の前・中・後鰓域にそれぞれ 3 棘が列ぶ。

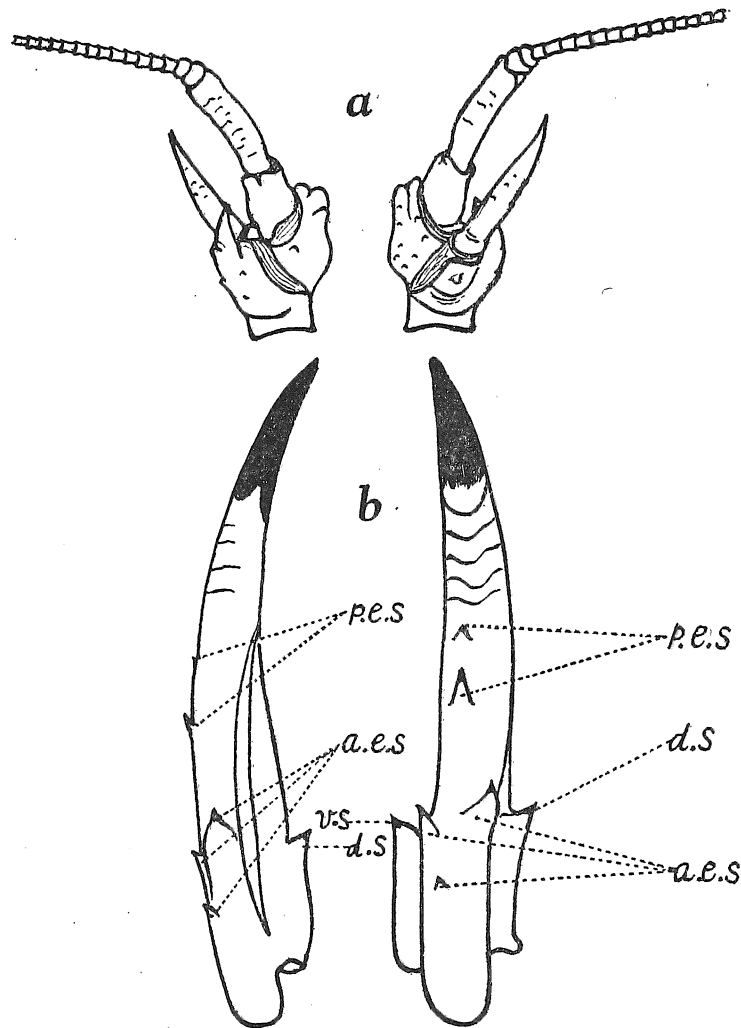
結局、甲の周縁には額角及び眼窩外棘を除いて片方に 14 棘、甲背片面に 16 棘となり、そのまが丸川久俊氏の用いた基準棘に完全に合致するが、故瓜田友衛氏は南樺太産のものによつて、胃域の棘のうち左右両端と最後方の計 3 棘を、すべての個体に同数同位とはいえない (50% 以上) として、これを除き、周 14 棘脊 15 棘をもつて成蟹の Normal form とした。

側甲 (Pleurite) は一名肢上部 (Epimeron) は著しきもの 5 片あり、すなわち肝域下に 1 片、鰓域下に大中小の 3 片、甲尻の角に最小の 1 片を有し、それら表面には低い大小棘が散在する。側甲は背甲と共に完全なる鰓室の外壁を形成する (その一、p. 65, 第 6 図参照)。眼柄は太く、額角の基部直下から左右外方へ突出する。第一触角は 3 節とその末端の内外両枝から成り、内枝は短小鞭毛、外枝は 2 節で末節はやや長く内縁に密毛を生ず。第二触角は基部 2 節とその端に連る内外両枝から成り、内枝は 2 節の触角柄と細長い鞭毛から成り、外枝は長い棘となつて突出し。基部第一節の外角棘と交叉し、著しく可動的である。第三顎脚は基部相隔り、座節の



Text-fig. 30. *Paralithodes camtschatica*, P₁ ~ P₅, outer view of pleurite (epimeron). タラバガニの側甲

内縁は拡がつてここに鋸歯を列す(その一、p. 64, 第5図参照)。鋏脚は右が著しく大、各節に大小多くの棘を装い、可動指に4, 不動指に5つの丘状歯を数う。両指の先端は黒い角質嘴となる。第一~三步脚は長大、なかんずく、第二を最とし、すべて、各長節は長い棒状を呈す。* 指節はわずか下方に湾曲して背腹両側に溝を有し、また大小7棘を具え、各溝の基部にある1棘は最大で、背位のものをも背棘(Dorsal spine), 腹位のものをも腹棘(Ventral spine)という、他の5棘は指節の外縁にあつて、内方の3棘を前外棘(Antero-external spines)と呼び

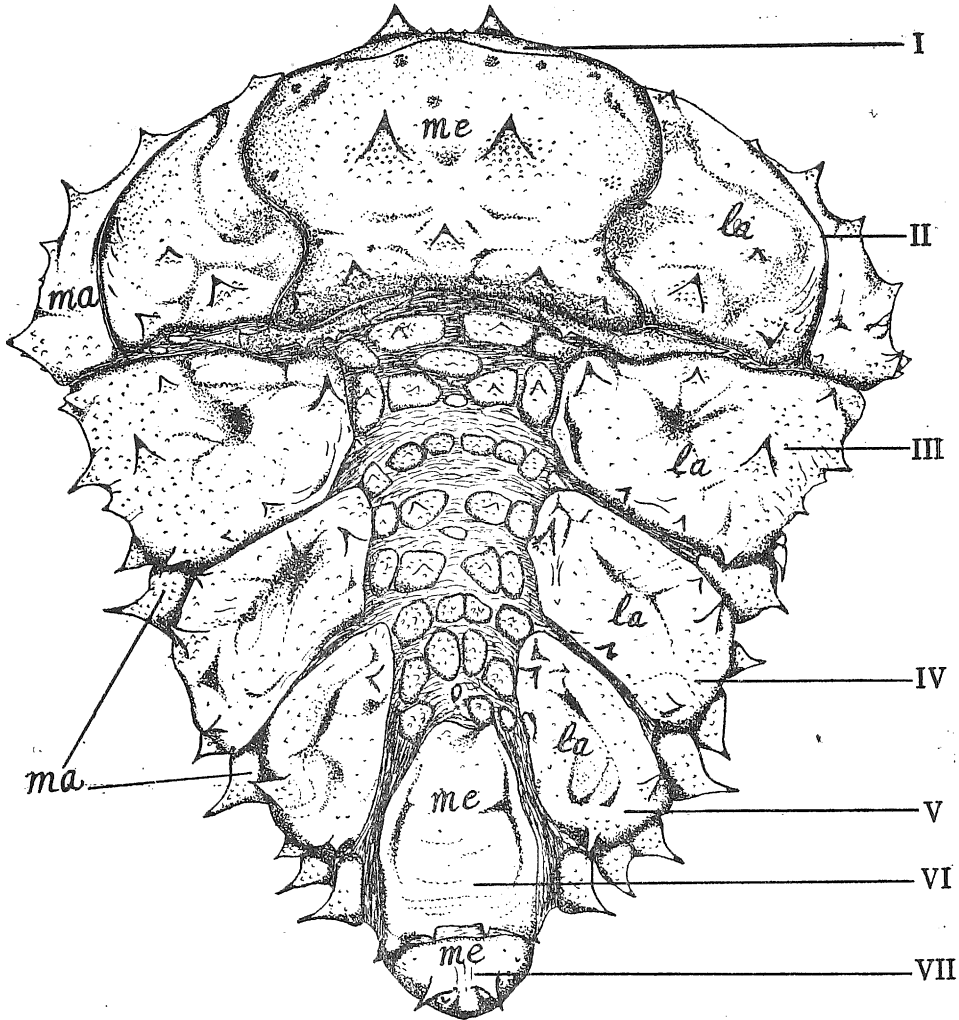


Text-fig. 31. *Paralithodes camtschatica* : a, 2nd antennae, right, dorsal view, left, ventral view ; b, dactylus of 2nd ambulatory leg, right, external view, left, dorsal view.

マラバガニの触角(上)と歩脚指節(下)

* 長節の両端が太さを同じうすることは、食用又は罐詰製造の際、肉をスムーズに取出すことができる。罐詰製造業者は各節の筋肉を次のように呼んで区別する：基節——肩肉(だき肉)、長節——第1脚肉(棒肉)、腕節——ラッキョ、前節——第2脚肉(ナンパン)、指節——爪肉(土屋靖彦、水産食物化学 p.205)

(その2棘はほぼ相並んで大きいが、1棘はそれより前に離れて甚だ小さい), 外方の2棘を後外棘 (Postero external spines) という (後方のものは小さい)。爪は黒紫色をおび先は扁平。第四步脚は甚だ小さく、Z字形にたたまれて、甲尻の下にかくれて、外部からは見えない、なお指節を失い、前節の先は鈍頭をなし、ここに逆毛を生ず。



Text-fig. 32. *Paralithodes camtschatica*, abdomen of ♂ × 0.8 :

I~VII, abdominal segments ; me, median plates ; la, lateral plates ; ma, marginal plates.

タラバガニの♂の腹節の構造

腹部は、他の十脚類のそれと同じく、7節から成り、♂では二等辺三角形をなし、第二節が最大、第七節が最小。各節は、中央板と左右の側板及縁板から構成され、各大小の棘を装う。第一節は中央板のみ、第三~五節は側板が主となり、中央板は、多くの有棘または無棘の小片に分れて、敷石状に並び、縁板は棘をもつて代表される。第六・七節は中央板のみ、末端に2

棘を具う。腹節各板の具う棘数には、頭胸甲のその如くに変異が多く標準棘を定めるに容易でないが、1例を示すと、

	第I節	II	III	IV	V	VI	VII
中央板	2	9	?	?	?	4	2
側板	—	4	10	4	3	—	—
縁板	—	4	2	3	3	—	—

♀の腹部は(第36図参照)全形椀状で、左右不相称、右方にねじれて構造甚だ複雑。各節3種の板から成り、第三~五節にあつては、中央板は多くの有棘または無棘の小片に分れた、左の側板のみは著しく大形にして、腹部の主部をなし、外縁に多くの棘を装う。右の側板は小さく長く長方形を呈し、それに分節せる縁板を附属する(左側にこれを欠ぐ)。第六・七節は中央板のみ、末節は甚だ小。

鰓は(その一、p. 65, 第6図参照)左右の鰓室におさめられ、大なる羽状鰓11づつあり、うち1つは側鰓他は関節鰓である。鰓式は次のとうりで、真ヤドカリ科のそれと同じ。

体節の序列	VIII (第三顎脚)	IX	X	XI	XII	XIII (第四步脚)
側鰓	0	0	0	0	1	0
関節鰓	2	2	2	2	2	0

生時頭胸甲及脚は紫赤色、腹部は黄色を帯ぶ。朝鮮では、リマン寒流の洗う東海岸の深所に分布し、その南限は、産業的には慶尙北道迎日湾を以つてし、分布学的には朝鮮海峡一部に進入していると考えられるふしがあるが、詳細は後述ヤドカリの分布論についてみられたい。丸川久俊氏によれば、日本側の南限は山口で、山口・島根・鳥取沿海では2~3月頃手操網で120~200 ぴろの深所から揚げられる。* カムチャッカが分布の中心のようである。罐詰用として重用され、少量は春先、生のまま京城の如き都市に運ばれる。東海岸地方の漁民の一部には、この甲羅に鬼面を描いて門前に吊し、もつて魔除けとなすの風習があり、その1つは元京城帝大の秋葉教授の民族資料室に陳列されていた。

18. *Paralithodes platypus* BRANDT アオトラバガニ (青鱈場),

アブラガ = (脂), BLUE-CRAB

Lithodes platypus BRANDT 1850, Bull. Phys. Math. Acad. St. Petersburg. T. 8, No. 16, 17, p. 236 (not read), 1851, *Krebse. Middendorff's Reise Sibirien*, Bd. 2, Zool, p. 18.

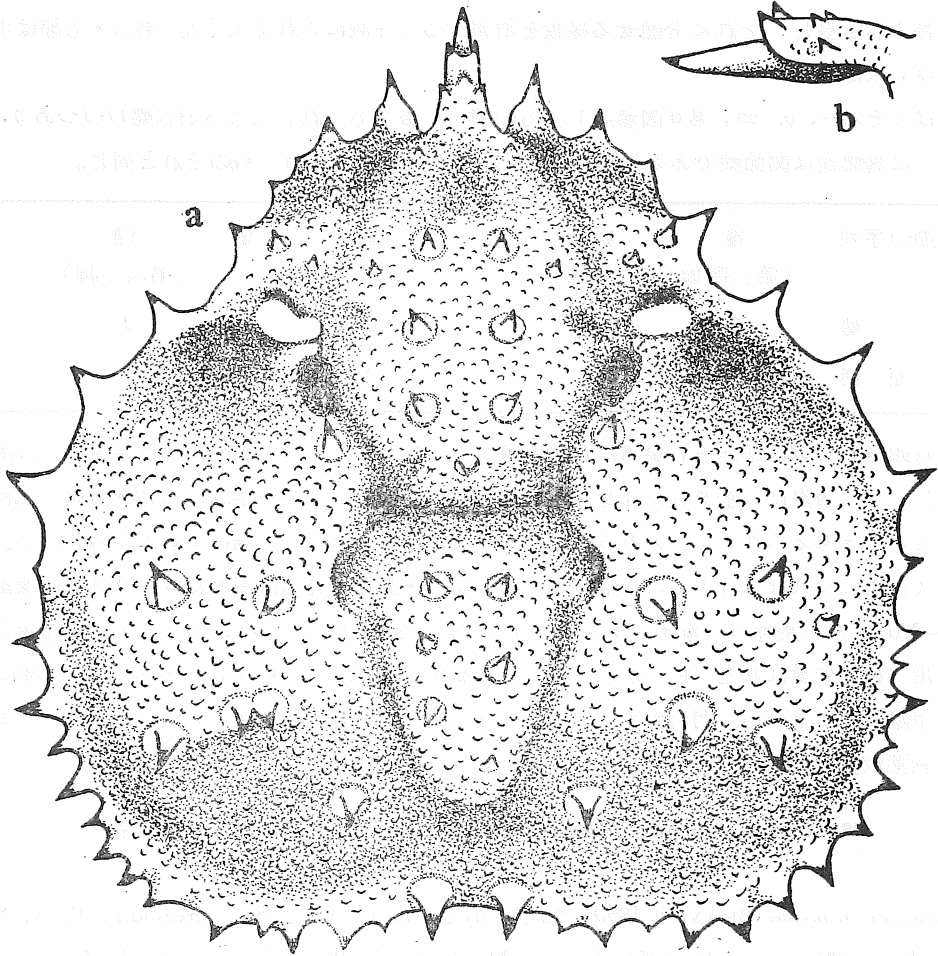
* 1955年11月25日付朝日新聞島根版は、石見近海(はるか沖合)で、底引漁船が、珍しいトラバガニ100箱をとつて、浜田市魚市場に水揚げした、と報じた。

Paralithodes platypus, BRAJNIKOV 1904, 1907, Mém. l' Akad. St.-Pétersb., Ser. VIII, Vol. XX, p. 53, Text-figs. a~b, Pl. 1, fig. 2 (not read); MARUKAWA 1936, p. 123, Pl. III, Eigs. 2, 7~8, 13~14, 18; URITA 1942, p. 51, Text-fig. 16.

Locality: Fish market at Keizyô; 2 ♀♀ (ovig.); 9, 10/III/1933; Writer.

Measurement: ♀, length of carapace (including rostrum) 160 mm, Width of same (excluding lateral spines) 155 mm.

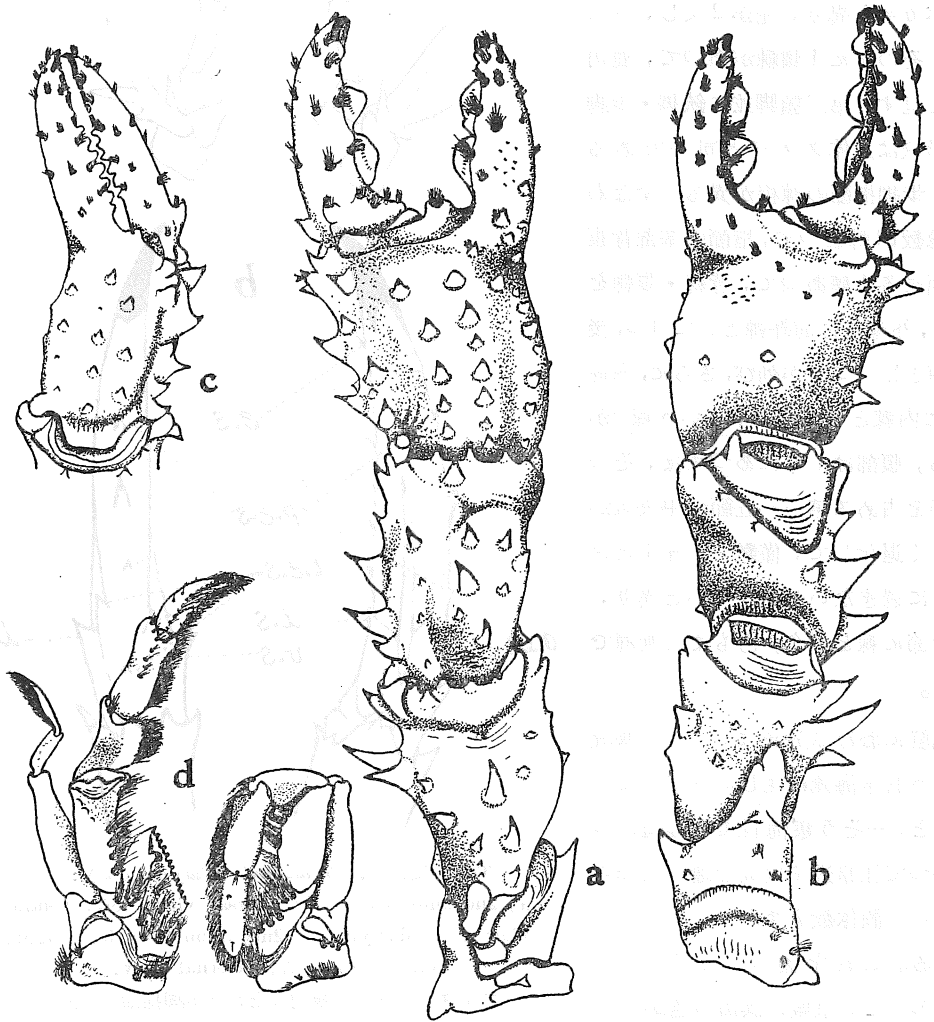
頭胸甲の輪廓は前種と同じであるが、額角の形状ならびに頭胸甲の棘相に明に異なる。額角(触状突起)は太く、短き中央棘の後に、左右相接近して2棘あり、さらに、その後方に3小棘があり、横一線に並び、あるいは中間のものが僅かに前に出る。眼窩はやはり甚だせまく、眼柄の基部をおさむるにとどまる。棘相の1例として、第33図に示すが如く、



Text-fig. 33. *Paralithodes platypus* BRANDT: a, carapace of ♀ from fish market (Keizyô), in dorsal aspect $\times 0.7$; b, rostrum viewed from lateral side.

アオタラバガニの甲

- 前縁に 4 棘：額角基部の左右にあつて、両眼窩外縁とその後に 1 つづつ列ぶ。
- 前側縁に 8 棘：左右肝域から前鰓域の外縁にかけて、片方に 4 つづつ列ぶ。
- 後側縁に 12 棘：左右の中鰓域から後鰓域の外縁にかけて、片方に 6 つづつ列ぶ。
- 後縁に 14 棘：腹部に連結する甲尻のところ列ぶ。中央の 2 つが著しく大きい。
- 額域に 2 棘：眼窩の直後に 1 つづつ列ぶ。
- 肝域に 4 棘：左右肝域の後方に偏して、片方に 2 棘づつ列ぶ。
- 胃域に 9 棘：胃域の主部に有対の 8 つと、最後方に無対の 1 つが列ぶ。
- 心域に 6 棘：左右に 3 つづつ縦に列ぶ。
- 鰓域に 14 棘：左右前鰓域の内側に 1 つ、中鰓域に 3 つ、後鰓域に 3 つづつ列ぶ。



Text-fig. 34. *Paralithodes platypus* (♀) :

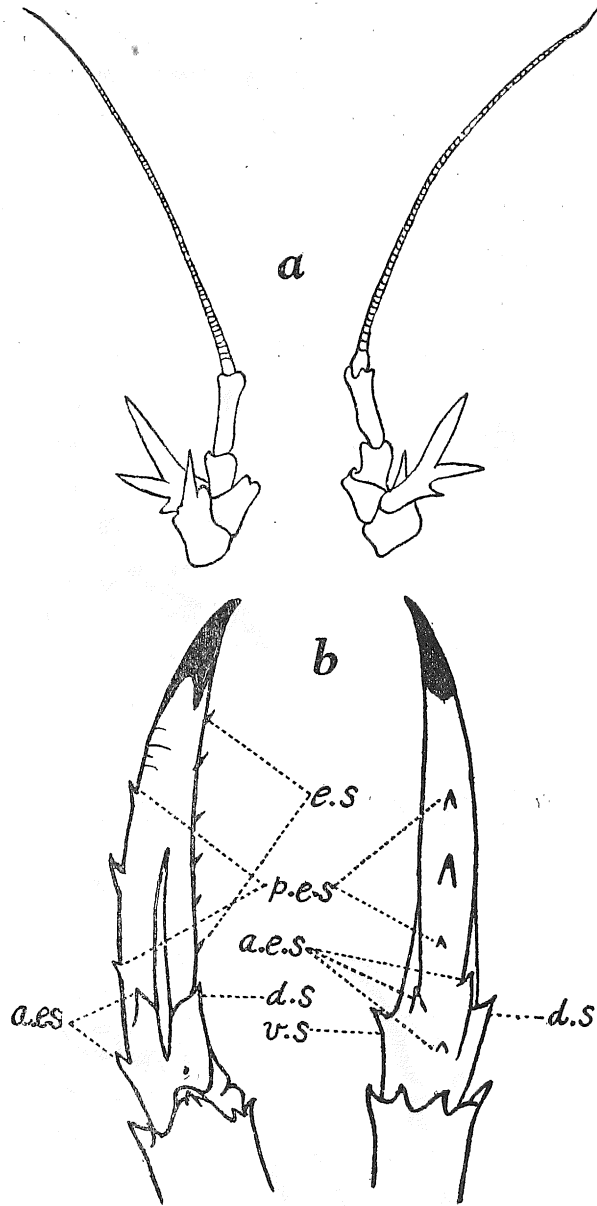
- a, right (greater) cheliped viewed from outer side ; b, inner view of same ;
 c, left (smaller) cheliped in outer view ; d, 3rd maxillipeds, all $\times 0.8$

アオタラバガニの鋏脚と外顎脚

これを前種に比べると、小さい雑棘を交えないから、棘相は簡素である。以上の棘相から肝域棘を除き、心域を4棘、鰓域を12棘とすれば丸川氏のいう本種の基準棘となる。鰓室の外壁をなす側甲には棘がない。第二触角は基部2節と、その端に連る内外の両枝から成り、内枝は2節の触角柄と鞭毛から成り、外枝はタラバガニと異り、先が2叉し、さらに、その下に1側棘があつて、鹿角状を呈す。第三顎脚並に鋏脚・歩脚の形状は大体タラバと同一であるが、歩脚指節の棘相が異なる。すなわち総数14棘あつて、指節の基部背腹両面に各1棘あつて、背棘・腹棘をなし、外縁上に前外棘として3つ、後外棘として3つが並び、さらに、内縁上に内棘として甚だ小さい6棘*がある。腹部は、♀にあつては、その大半を占める第三～五節の中央板が著しく退化して、僅数の小片をとどめるに過ぎないが、タラバと異り、第七節に棘を欠ぐ。♂もまた無棘である。

朝鮮における分布は、リマン寒流の洗う日本海側に産し、タラバに比べると、一そう寒海性で感鏡道の海に停つて江原道や慶尙北道には降らず、その個体数もきわめて少いようである。これを裏つけるものとして、かつて、京城の浜田魚店から、

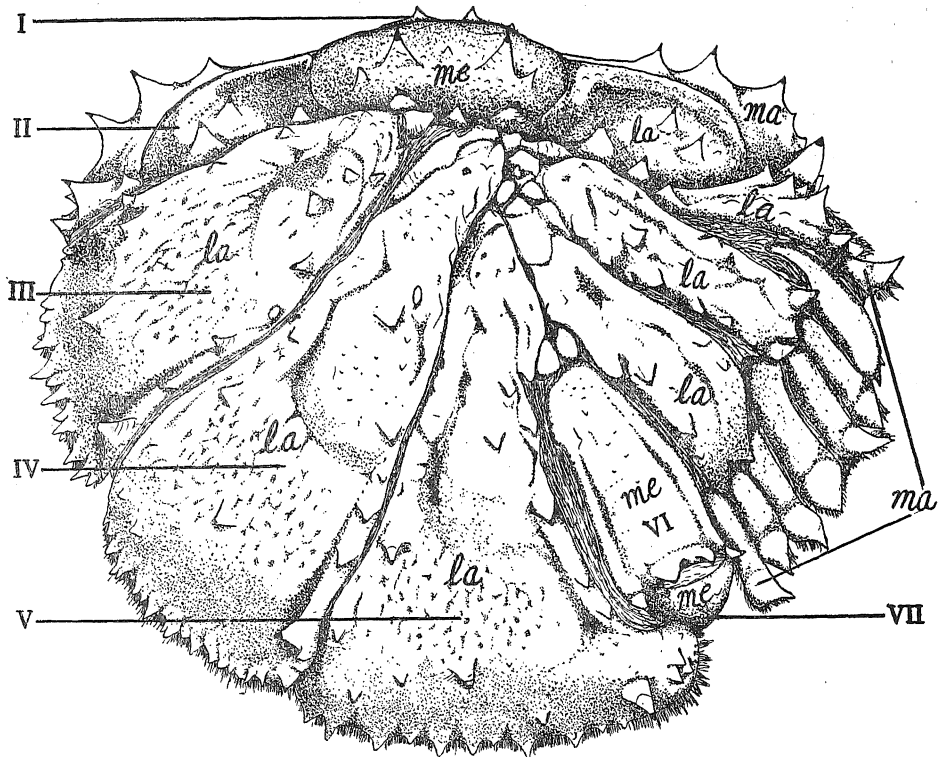
これは珍しいというて1♀(抱卵)を筆者に恵贈され、そは元山から来たといことであつた。



Text-fig. 35. *Paratithodes platypus* (♀):
a, 2nd antennae, right, dorsal view, left, ventral view; b, dactylus of 2nd ambulatory leg, right, dorsal view, left, ventral view, external view.

アオタラバガニの触角(上)と歩脚指節(下)

* 北太平洋産のものでは、後外棘は4個にして内棘は5個というのが基準になつている。(丸川久俊)



Text-fig. 36. *Paratithodes platypus*, abdomen of ♀, ×0.9: I~IV, abdominal segments; me, median plates; la, lateral plates; ma, marginal plates.

アオタラバガニ♀の腹部の構造。

別に筆者は他所（京城）でタラバに混入せる1♀（抱卵）を見つけて購入したが、原産地は不明であつた。かくして、ごく少数のものがタラバに混在して水揚げされていることは明である。丸川久俊氏によれば、日本海にあつては、ダツタン海峡から、大陸側に沿うて、ウラジオストックに亘つて分布し、樺太の西岸には少く。本州及び北海道沿海にはほとんど発見されないという。分布の中心はベーリング海沿岸であるらしく、以前は蟹網にかかるもののうち、本種が8割を占むることさえ、けつして稀ではなかつたといわれる。

Subtribe II, HIPPIDEA ヒツバ亜科

クダヒゲガニ科 *Albuneidae* とスナホリガニ科 *Hippidae** から成り、朝鮮には前者のみ棲息。1) 頭胸甲はほぼ楕円形甲背は高まる。2) 頭胸甲は側角を有し、かつ側甲 (Pleurite) と連結せず。3) 腹部は左右相称、頭胸部の下面に僅に曲折する。4) 尾緒を形成するが、発達不良、游泳に不適。5) 第一触角はよく発達。6) 第二触角は基部2節と3節の触角柄を有す。7) 第一脚は鋏。8) 第五脚は退化萎縮して用をなさない。

* この科のものは次の特徴を有す： 1) 頭胸甲は楕円形を呈し、かつ、側方に拡がつて脚を覆い、脚は背から見えない。 2) 第一対脚は鋏を形成しない。 3) 第三顎脚は外肢を欠き長節は巾広い。東亜の海域では小笠原島の沿岸に *Hippa* (= *Remipeste*) *testudinaria* を産す。

この科のものは、体のどこをみても何ら不相称のところはないが、次の諸点ではヤドカリ類に似ている。

1) 頭胸甲の外側に側甲、一名肢上部 (Epimeron) を有す。

2) 第二触角の基部第二節に附属する外枝 (触角棘) は、退化して棒状あるいは小さき鱗片状となる。

3) 第五脚は退化萎縮して用をなさない。

4) 腹部は僅かであるが、頭胸甲の下面に曲折して、游泳の用をなさない。

次に、形態構造上の異彩として、次のものが挙げられる。

1) 第一触角が著しく発達する。

2) 歩脚の環節が著しく変形する。

3) 腹部の最終環節たる、いわゆる尾節と、それに附属する尾脚とが変形して、尾鰭 (尾扇 Tail fan) を形成する。

(次号へつづく)

引 用 文 献

前(その二)に掲げた文献と重複するものはすべて省く。

石井四郎 1933 (昭和8): 南樺太近海産タラバガニ (*Paralithodes camtschatica* TILESIIUS) の地方型に就て。樺太庁中央試験所報告, 第六号, 第三類 (水産) 第一号。

BENEDICT, J. E. 1894 (明治27): Description of new genera and species of Crabs of the family Lithodidae with notes on the young of *Lithodes camtschaticus* and *Lithodes brevipes*. Proc. U. S. Nat. Mus., Vol. XVII.

丸川久俊 1918 (大正7): タラバガニとその幼児。水産研究誌第十三巻第一号。

——— 1933 (昭和8): たらば蟹調査。日本蟹類誌水産組合連合会 (東京水産試験場報告第四号別刷)。

——— 1936 (昭和11): たらば蟹に就いて。蟹漁撈作業研究会 (謄写)。

MIERS, E. J. 1879 (明治12): On Crustacea from the Corean and Japanese Seas. Proc. Zool. Soc. London.

RATHBUN, M. J. 1910 (明治43): Decapod Crustaceans of the Northwest Coast of North America. Hariman Alaska Expedition, Vol. X, Crust.

爪田友衛 1931 (昭和6): 南樺太産タラバガニの甲殻の棘の数及其の配列に就いて。動物学雑誌第四十三巻第五百七号。

——— 1940 (昭和15): タラバガニの話。樺太庁博物館叢書 2。